

作成日 2013年09月24日

改訂日 2014年06月20日

# 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

### 1.1 製品特定名

“トヨラック” 100 (区分322)

### 1.2 他の特定手段

整理番号(SDS No.) R3J-HA0A00RA100322N-3

### 1.3 製品の推奨用途と使用上の制限

#### (1) 推奨用途

家電用途、電子材料、工業材料等の樹脂原料

#### (2) 使用上の制限

東レは、いかなる場合においても、明示黙示にかかわらず、本材料の用途適合性及び安全性について一切の保証をしないものとします。

なお、本材料が、医療用途又は食品接触用途を含めるがこれに限らない

ご使用者様の特定の用途に適合するかどうかについては、ご使用者様各位

が責任をもって判断するものとします。また、体内埋め込み用途には使用しないで下さい。

### 1.4 供給者の詳細

#### (1) 会社名

東レ株式会社

#### (2) 住所

東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー

#### (3) 責任部署・担当部署

トヨラック事業部, 自動車材料事業部

#### (4) 責任者・担当者

トヨラック事業部長, 自動車材料事業部長

#### (5) 電話番号

03-3245-5506、5495

#### (6) FAX番号

03-3245-5507、5498

#### (7) メールアドレス・URL

<http://www.toray.jp/plastics/>

### 1.5 緊急電話番号

03-3245-5506、5495

## 2. 危険有害性の要約

### 2.1 化学物質または混合物のGHS分類

本製品はJIS Z 7252:2014 (GHSに基づく化学物質等の分類方法) に従い危険有害性に分類されない。

### 2.2 GHSラベル要素

対象外

### 2.3 GHS分類に該当しない他の危険有害性

この樹脂の乾燥および成型に際して、揮発成分が放出され、目、鼻、喉が刺激されることがあります。

これらの熱処理中は適切な局所排気をおこなって下さい。

ペレットが床からこぼれたら、滑らないようにすぐ掃除して下さい。

荷崩れが起こる恐れがありますので、製品の積み上げ方に御留意下さい。

### 2.4 重要な徴候および想定される非常事態の概要

情報なし

## 3. 組成、成分情報

### (1) 化学物質・混合物の区分

混合物 (Mixture)

### (2) 化学名 (一般名)

アクリトリル-ブタジエン-スチレン共重合体等からなる混合物

別名 (通称、略称)

A B S 樹脂

(3) 組成・成分情報

A. 主成分

化学名

アクリロニリル-ブ`タジ`イン-スレン共重合体(A)  
 (もしくは(A)とアクリロニリル-スレン共重合体(B)及び/又は  
 アクリロニリルとスレンとその他の成分の共重合体(C)からなる混合物)

含有量(%) 95%以上

化学特性(化学式又は構造式)

(A)-[(C8H8)k-(C3H3N)L-(C4H6)m]n-

(B)-[(C8H8)k-(C3H3N)L]m-

CAS No. (A)9003-56-9、(B)9003-54-7、(C)登録済

化審法番号 (A)6-176、(B)6-126、(C)登録済

安衛法番号 (A)既存、(B)既存、(C)既存

化学名

添加剤

含有量(%) 5%以下

CAS No. 登録済

化審法番号 登録済

安衛法番号 既存

C. 不純物

化学名

スレン

含有量(%) 0.05-0.2%

化学特性(化学式又は構造式)

C8H8

CAS No. 100-42-5

化審法番号 3-4

安衛法通知義務番号 323

GHS分類に寄与する不純物が 寄与しない

4. 応急措置

4.1 必要な応急措置の説明

(1) 吸入した場合

気分が悪い時は医師の診断/手当てを受けること。

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

形状から見て、ペレットを吸入することは起こりにくい。高温の溶融樹脂から発生するガス、  
 フュームをひどく吸入したときは、新鮮な空気のある場所に移ること、咳、呼吸困難の症状が  
 出たときは、医師の手当を受ける。

(2) 皮膚に付着した場合

気分が悪い時は医師の診断/手当てを受けること。

水で洗う。高温の溶融物からの発生ガスの凝集物が付着したら、石鹼水でよく洗う。

溶融樹脂が皮膚に付着したら、直ちに水で冷やし医師の手当を受ける。

(3) 目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

最低15分間、清浄な水でゆるやかに眼の洗浄を行うこと。できるだけ速やかに医師による診  
 断と医療処置を受けること。

目をこすったり固く閉じたりしないこと。

(4) 飲み込んだ場合

気分が悪い時は医師の診断/手当てを受けること。

#### 4.2 最も重要な急性症状および遅発性症状

情報なし

#### 4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

情報なし

### 5. 火災時の措置

#### 5.1 適切な消火剤および使ってはならない消火剤

##### (1) 適切な消火剤

霧状水 / 棒状水 / 泡 / 粉末 / 炭酸ガス

##### (2) 使ってはならない消火剤

特になし

#### 5.2 化学品から生じる特有の危険性

燃焼の際に生成する有毒なフュームまたはガス(一酸化炭素 / 窒素酸化物 / 二酸化炭素 等)。

火災のとき大量の黒煙が発生する。

#### 5.3 特有の消火方法

安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護すること。

移動可能な容器は、安全に行える限り火災場所から搬出すること。

消火活動は、離れた風上から行うこと。

関係者以外は安全な場所に退去させること。

#### 5.4 消火を行う者の特別な保護具と予防措置

消火活動従事者は適切な保護具を着用すること。

### 6. 漏出時の措置

#### 6.1 人体に対する注意事項、保護具、および緊急時措置

道路や床にこぼした場合は、転倒のおそれがあるので集めて処分する。

#### 6.2 環境に対する注意事項

下水、排水中に流さないこと。

海洋生物や鳥類が摂取して死亡するのを防止するため「樹脂ペレット漏出防止マニュアル」を参照されたい。

#### 6.3 封じ込めと洗浄のための方法および機材

掃き集めて、容器に回収したのち廃棄まで保管する。

#### 6.4 二次災害の防止策

付近の着火源となるものを取除くこと。

### 7. 取扱いおよび保管上の注意

#### 7.1 安全な取扱いのための注意事項

##### (1) 技術的な対策

###### A. 取扱者の暴露防止

粉じん / ガス / フュームを吸入しないこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

###### B. 火災・爆発の防止

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

##### (2) 局所換気・全体換気

射出成形機、押出機等を用いて溶融樹脂を取り扱う時にはガスが発生する為、発生箇所では有効な局所排気を実施すること。

また、上記作業を実施する建屋内、作業スペースでは、換気扇等による全体換気に努めること。

##### (3) 注意事項

粉じんの堆積を防止する。

##### (4) 安全取扱い注意事項

容器を破損させないこと。

容器は鋭角のものに落下させたり、当てる等しないこと。

加工時に発生するガスは、呼吸器、皮膚を刺激することがあり、ひどく吸入した場合、個人に

よっては吐き気、頭痛を起こすことがあるので吸入しないようにする。

機械加工（切断、サンディングなど）粉砕などで発生する粉塵は、静電気や電気スパークなどで粉塵爆発を起こすことがあるので、堆積しないように清掃を心掛ける。

(5)適切な衛生対策

休憩、終業時は手を洗うこと。

作業中の飲食、喫煙禁止。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

(1)技術的な対策

情報なし

(2)適切な保管条件

消防法の指定可燃物（合成樹脂類）であり、市町村条例に従って取扱い、保管する。

直射日光、水濡れ、湿気、急激な温度変化を避け、施錠して換気の良いところで保管して下さい。

熱源、発火源から離れた場所で荷崩れをしないよう保管して下さい。

(3)避けるべき保管条件

火気厳禁

(4)安全な容器包装材料

保管条件を満足し、破損しない強度を有する容器包装材料であること。

8. 暴露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

(1)管理濃度

管理濃度は設定されていない。

(2)許容濃度

日本産業衛生学会とACGIHとともに、ABS樹脂の粉塵に関する許容濃度は定めていないが、次の値を運用するのが妥当と考えられる。

日本産業衛生学会勧告値(2011) 第3種粉塵

時間荷重平均値 : 吸入性粉塵 2mg/m<sup>3</sup>、総粉塵 8mg/m<sup>3</sup>

ACGIH勧告値(2011) 一般粉塵

時間荷重平均値 : 吸入性粉塵 3mg/m<sup>3</sup>、総粉塵 10mg/m<sup>3</sup>

(3)DNEL(導出無影響量)

情報なし

(4)PNEC(予測無影響濃度)

情報なし

8.2 適切な設備対策

高温加工時に空気中に開放される部分でガスが発生するので、快適な作業環境を得るため局所排気等を設けるのが望ましい。

8.3 個人保護具

(1)呼吸器用の保護具

樹脂製品の機械加工、サンディングなど粉塵の発生する作業の場合には防塵マスクを着用する。発生ガス、フュームを吸入する可能性がある場合は、有機ガス用マスクを着用する。

(2)手の保護具

直接皮膚に触れない様に保護手袋を着用することが好ましい。

溶融樹脂を取り扱うときは耐熱性のよい手袋を着用する。

(3)目の保護具

保護眼鏡または安全ゴーグルを使用すること。

(4)皮膚及び身体の保護具

直接皮膚に触れない様に長袖の作業着を着用することが好ましい。

溶融樹脂を取り扱うときは耐熱性のよい作業着を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 9.1 基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

#### (1) 外観

##### A. 物理的状态

固体(ペレット状)

##### B. 色

淡黄色

#### (2) 臭気

常温では殆ど無臭

#### (3) 臭気の閾値

情報なし

#### (4) pH

該当しない

#### (5) 融点/凝固点

明確な融点はなく、広い温度範囲(130~150)で次第に軟らかくなる。

#### (6) 沸点/沸点範囲

データなし

#### (7) 引火点

データなし

#### (8) 蒸発速度

データなし

#### (9) 燃焼性(固体、気体)

データなし

#### (10) 燃焼又は爆発範囲の上限・下限

上限: データなし

下限: 60 g/m<sup>3</sup> (粒径 200 μm)

#### (11) 蒸気圧

データなし

#### (12) 蒸気密度

データなし

#### (13) 比重(相対密度)

1.01-1.07

#### (14) 溶解度

水に不溶。樹脂成分は一般の有機溶剤に可溶。

#### (15) オクタノール/水分配係数

データなし

#### (16) 自然発火温度(発火点)

405 以上(ASTM D 1929-77)

#### (17) 分解温度

データなし

#### (18) 粘度

データなし

#### (19) 爆発性

なし

#### (20) 酸化性

なし

### 9.2 その他の情報

情報なし

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

特になし

## 10.2 化学的安定性

予期される通常の保管および取扱いの条件において安定と考えられる。

## 10.3 危険有害反応可能性

予期される通常の保管および取扱いの条件において安定と考えられる。

## 10.4 避けるべき条件

直射日光、火気、熱源等

## 10.5 混触危険物質

特になし

## 10.6 有害な分解生成物

燃焼時には、黒煙、二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物等のガス発生の恐れがある。

## 11. 有害性情報

### (1) 急性毒性

区分外

\*: 混合物の判定理論に基づき「区分外」に分類される。

### (2) 皮膚腐食性 / 刺激性

分類できない (データなし)

### (3) 呼吸器感作性又は皮膚感作性

分類できない (データなし)

### (4) 眼に対する重篤な損傷 / 刺激性

分類できない (データなし)

### (5) 変異原性 (生殖細胞変異原性)

区分外

\*: 混合物の判定理論に基づき「区分外」に分類される。

### (6) 発がん性

区分外

\*: 混合物の判定理論に基づき「区分外」に分類される。

### (7) 生殖毒性

区分外

\*: 混合物の判定理論に基づき「区分外」に分類される。

### (8) 特定標的臓器 / 全身毒性 - 単回暴露

区分外

\*: 混合物の判定理論に基づき「区分外」に分類される。

### (9) 特定標的臓器 / 全身毒性 - 反復暴露

区分外

\*: 混合物の判定理論に基づき「区分外」に分類される。

### (10) 吸引性呼吸器有害性

分類できない (データなし)

### (11) その他の有害性

情報なし

## 12. 環境影響情報

### 12.1 毒性

#### (1) 急性毒性

区分外

\*: 混合物の判定理論に基づき、「区分外」に分類される。

#### (2) 慢性毒性

区分外

\*: 混合物の判定理論に基づき、「区分外」に分類される。

### 12.2 残留性と分解性

分類できない (データなし)

- 12.3 生物蓄積性  
分類できない(データなし)
- 12.4 土壤中の移動性  
分類できない(データなし)
- 12.5 オゾン層への有害性  
分類できない(データなし)
- 12.6 その他の有害影響  
情報なし

### 13. 廃棄上の注意

#### 13.1 廃棄方法

廃棄物処理法および関係自治体条例にしたがって処理を行うこと。

廃棄物の処理を委託する場合には廃棄物処理法及び関係自治体条例に従い、処理業の許可を持つ業者に委託すること。

廃棄物の処理を委託する場合は処理業者等に、危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

尚、本製品を使用後、本製品容器(紙袋、フレキシブルコンテナ等)を廃棄するときは、本製品の残留が無いことを確認した上で、関係法規に従って廃棄し、他に転用しないこと。

### 14. 輸送上の注意

- 14.1 国連番号 該当しない。
- 14.2 国連出荷名 該当しない。
- 14.3 輸送時の危険性クラス 該当しない。
- 14.4 容器等級 該当しない。
- 14.5 環境有害性 該当しない。
- 14.6 使用者のための特別予防措置  
情報なし

14.7 MARPOL73/78 付属書II および IBC Codeによるバラ積み輸送される液体物質  
該当しない。

#### 14.8 輸送上の国内規制

- 陸上輸送 該当しない。
- 海上輸送 該当しない。
- 航空輸送 該当しない。

#### 14.9 輸送上の安全対策及び条件

梱包袋が破れないように、水濡れや乱暴な取り扱いを避ける。

もし、破袋してペレットが飛散した場合は、滑って転倒しないように注意する。

流出したものは速やかに、全量回収する。

空気移送の場合は、移送速度を低くしたり確実な接地を行うなど静電気災害防止対策を確実に実施する。

#### 14.10 緊急時応急措置指針番号

該当しない。

### 15. 適用法令

#### 消防法

3,000kg以上の貯蔵は消防法第9条3の指定可燃物

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)

廃プラスチック類

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

(P R T R法)

第一種指定化学物質: 非該当

第二種指定化学物質: 非該当

労働安全衛生法(第57条の2第1項、関係省令)

有害性の情報を通知すべき物質(通知対象物)

スチレン 0.05-0.2%を含む

この物質に関する貴国又は地方の規制について調査することは、当社としては行いかねますので、この問題は貴社の責任で処理願います。

この物質に関する貴国又は地方の規制を遵守してください。

## 16. その他の情報

最新版改訂日と変更箇所

改定日 2014年06月20日

改訂項目 J I S Z 7 2 5 3 : 2 0 1 2 への改訂に準じて、SDS記載内容を改訂した。

引用文献

「JIS Z 7252: GHSに基づく化学品の分類方法」、日本規格協会 (2014)

「JIS Z 7253: GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」、日本規格協会 (2012)

「GHS対応ガイドライン 製品安全データシート作成指針 (改訂第2版)」、日本規格協会 (日本化学工業協会編集) (2008)

「化審法化学物質改訂第7版」、化学工業日報社(通産省監修)(2007)

「15911の化学商品」、化学工業日報社(2011)

「労働安全衛生法MSDS対象全データ (改訂第2版) -GHS対応」、化学工業日報社(2007)

「樹脂ペレット漏出防止マニュアル」、日本プラスチック工業連盟他(1993)

「許容濃度等の勧告(2011)」、産業衛生学会雑誌53巻(2011)

「2011 TLVs and BEIs」、A C G I H (米国産業衛生専門家会議) (2011)

「A C G I H (2003年)の有害物質の許容濃度・生物学的暴露指標値」、ワークサイエンスリポート (No.1661-64)

責任の限定について

この情報はこの特定の材料に関するものであり、この材料が他の材料と組み合わせられたり、処理されたときは無効です。この情報を自分自身の独特な取扱いに適合させ、完全に満足できるものとする責任はユーザーにあります。

ここに示す情報は誠意をもって作成していますが、明記があるにしても保証はありません。これ以上の情報については当社にご相談ください。

この情報は、私どもの知識の及ぶ限りにおいて正確ですが、当社は内容の正確性または完全性について、何も責任を取ることはできません。すべての材料を適当に使用する最終的決定の責任はユーザーのみのものです。すべての材料には、未知の危険性があり、取扱いに注意が必要です。ここには特定の危険性について記載してありますが、これ以外の危険性が存在しないことは保証できません。本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。